平成28年度 第15回高山市教育委員会臨時会議事録

1. 日 時 平成29年2月15日（水） 午前9時00分から
2. 場 所 高山市保健センター 集団指導室
高山市役所 203会議室（休憩後）
3. 出席者 委員会 中村教育長、針山委員、打江委員、岡田委員、野崎委員、長瀬委員
事務局 井口教育委員会事務局長、西本教育総務課長、山本学校教育課長、学校教育課 石原、新井、教育総務課 直井
4. 欠席者 委員会 欠席なし
5. 署名者 針山委員

午前9時00分開会

- 中村教育長 本日の委員会は、出席者6名で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定に基づき、定足数に達していますので、成立しております。ただ今から、平成28年度第15回高山市教育委員会臨時会を開会いたします。
- 中村教育長 会議録署名委員の指名を行います。
本日の会議録署名委員は、「針山委員」を指名いたします。
- 中村教育長 それでは次に日程第1、協議16「平成29年度からの小中学校前期・後期制の導入について」を議題といたします。
事務局より説明願います。
- 山本学校教育課長 <前回臨時会からの経過等について説明>
説明項目
1. 校長会からの確認事項（2月8日）
 - (1) 児童生徒、保護者、学校職員の本件に関するこれまでの様子や現状
 - (2) 校長会の本件に関する2つの考え方
 - ・ 導入について積極的に行うべきとの意見
 - ・ 導入について慎重に進めるべきとの意見
 2. 校長会役員会からの確認事項・意見（2月13日）
 - (1) 評価期間が長い二学期制において、学習意欲を維持するための具体的な目標設定に対する対応
 - (2) 前期・後期の切り替え期間が短い中で、学期の切り替え意識を持つことへの対応
 - (3) 次期学習指導要領への対応
 3. 高山市PTA連合会アンケート調査
- 中村教育長 事務局の説明は終わりました。

まず、これまでの定例会、臨時会における議論について持ち越している内容やその後の関係者との意見交換等の状況について整理をしますと、1点目は野崎委員から文教産業委員会と教育委員会との懇談会を設けることについてご意見がありました。2点目は校長先生方から校長と文教産業委員会との懇談会を設けることの声や事務局から説明のあったように試行実施やパイロット校での検証の提案があり、3点目は高山市PTA連合会白尾会長から各学校PTA役員に対するアンケート調査結果の報告をいただいた状況です。

それでは、本日この件に関する結論を導き出したいと考えていますので、各委員より質疑と意見をお願いします。

○長瀬委員 前回の臨時会において、その段階における自分の考えは述べさせていただき、最終的な判断を下すために、これまで共にすすめてきた学校現場である校長先生方の願いや意見を聞いていただくことをお願いし、只今その報告を受けました。一方これまで想定していなかったPTA連合会からのアンケートについては、事務局からの要請により実施したものか連合会が自主的に行ったものなのか、また、その中身や結果について分かる範囲で紹介してほしい。

○中村教育長 ご質問については総括してお答えしたいと思いますが、他に発言はございませんか。

○野崎委員 PTA連合会の内容は重要ですので、確認してから発言したいと思います。

○針山委員 私も同じです。

○中村教育長 各委員とも同じご意見ですので、PTA連合会のアンケート概略について事務局より説明願います。

○山本学校教育課長 アンケートについては、報道等の情報をみながら市PTA連合会の白尾会長が自分達にできるところはないかとの思いから自発的に行われたものです。アンケートは今月10日に各学校PTA役員に配布され14日に回収し、先ほど午前9時15分頃に白尾会長が来庁されお届けいただいたものです。

○井口教育委員会事務局長 会議の直前にご提出いただき中身については十分確認できていませんが、傾向について説明いたします。

白尾会長からは意見の数だけで判断できるものでもなく、少数意見に対する配慮も必要であるとの意見があるとの考えでした。アンケートは基本的に、賛成、どちらともいえない、反対の3点で回答されており結果としては、3名の方が反対で内容としては、三学期制の方がよい、一年間延期して再検討してすすめる、二学期制から三学期制に戻しているところもある等の意見がありました。どちらともいえないとの意見を少し紹介しますと、急な話で賛成・反対の選択はできない、今の時点では判断しにくくメリット・デメリットを明確にしたうえで考える、検討のプロ

セスについて公開していく必要がある、二学期制・三学期制いずれにもメリット・デメリットがあるため早急な決定をして後で問題が出てはいけない、デメリットに対する対応策を具体的に知りたい、本気で取り組むのなら土曜授業を復活させる、一度決めたことを覆すのはよくないのではないかと、一見すると職員の仕事軽減のためと捉えられるなどの意見があったようです。基本的に賛成は多数のようでありませんが、一方ではこのようなご意見があるということです。

○長瀬委員 アンケートは何名の方に対して調査したのですか。

○井口教育委員会事務局長 アンケート対象が何名かは把握していませんが、現時点で93名の方から回答があったようです。

○野崎委員 賛成の方にも様々な意見があったということでもいいですか。

○井口教育委員会事務局長 はい、賛成の中にも様々なご意見があったようです。肯定的な意見は多かったようで、例えば子ども達に向き合う時間が増えることはよい、先生の時間を生み出すことができる点でもよい、生徒会活動の区切りと一緒に分かりやすい、高校も二期制であり進学後スムーズに学校生活に馴染める、夏休みに三者懇談を行うことが出来る、学期の切り替えが長期休み明けではないので逆に切り替えがし易いなどの意見があったようです。

○長瀬委員 前回と同様な話になりますが、私は高校教員として二学期制への移行を経験して特段の問題は感じませんでした。何事にもデメリットはありますが、小中学校においてもメリットの方が大きいと思っており、今も移行する考えに変わりありません。但し、文教産業委員会からいただいた意見は重く受け止め再考を行う必要があります。

一方で文教からのご意見は大切にしなければいけません、学校が二学期制に向けて強い願いを持っており、それが学校の最高責任者である校長の総意であれば高山市の教育にとってもすすめて行くべきとも思います。ただ関係者全般の意見を踏まえると、PTAの場合はこれまでの学校と保護者の信頼関係により、実施しよう、協力しようという気持ちになっていただいている部分もあり、その中で来年度の実施については、まだ心配の声もあることを受け止め、まず29年度早々にその心配の声に対する対応をすすめていき、30年度実施に向け取り組んでいく方向でどうか考えます。このような事は意見の数で決めるのではなく、将来のためにも小さな意見も大切にしながらすすめる必要があると思います。

○打江委員 前回の繰り返しになりますが、目的である子どもと向き合う、とはどういうことかを具体化し、誰でも分かるようにする必要があります。また、校長先生方の強い意志も感じられましたので、その思いを汲み取ることも大事だと思います。子どもと向き合うとは評価をすることなのか、子どもと接する時間を持つことが向

き合うことなのか、もっと具体化、明確化していかないと理解はしてもらえないと思います。

そのため、私の意見としては29年度は検証を行うとの意見に賛成ですが、時間は無限にある訳ではないので、どのような形で検証を行うのかも大事と考えます。

これまで私達は学校を見たり、行政との係わりの中から議論を重ね二学期制への移行を決めてきましたが、市民の方々や議員の皆さんにとっては少し唐突で抵抗感があり、十分な議論が行われていないという印象を持たれたのではないのでしょうか。教育委員会と市民の方には認識の差があったということであり、検証や意見交換を経て徐々にその差を埋めていく必要があると思います。

○中村教育長

ここまでお話を聞きながら2つのポイントがあると思っています。一つは子どもと向き合うことの具体化という点について、教育委員や事務局はどのように捉えていたのかということと、二つ目は教育委員や学校、事務局が描いている前期・後期制と、突然聞かされる側には意識の差があり捉えきれないと不安になってしまうと思います。この点について、もう少し深めていきたいと思っています。

○長瀬委員

子どもに向き合う時間の最たるものは授業が第一だと思っています。高校においても授業時間の確保という目的のため、三学期制から二学期制に移行をしており、今回の小中学校での学期の変更については、私の中では同じ理由による考えでした。期せずして学習指導要領の改訂が昨日公表されましたが、1単位時間増えることになっており、その対応として授業時間の短縮や夏休み等の短縮等が紙面には掲げられていましたが、同様に三学期制から二学期制に移行することにより生み出すことができる訳です。ですから私は、子どもと向き合うということは授業時間を確保することが大きいと考えています。

○野崎委員

私が考える子どもと向き合うとは、授業時間を確保し学力を身に付けるというのが大きな理由です。前回提案しましたとおり、今後、普通の授業の中で命の教育にも取り組んでいく必要があると考えており、授業時間の確保によるメリットがここにも繋がっていくと思います。

これまで校長先生方からは強い思いが感じられ、延期した場合に何もしないで検討するだけで30年度をむかえるという訳にもいかないので、29年度は試行期間と位置づけモデル校やパイロット校による検証を行うのがよいと考えます。

○岡田委員

私の思う子どもと向き合うとは授業時間の確保もそうですが、前回もお話しましたとおり長い目で子どもの成長を見守ってほしいとの思いもあります。三学期制の節目節目で区切りをつけ新たにスタートすることも大事ですが、短い期間で上手に切り替えられる子どもばかりではないと思いますので、少しつまずいても長い期間で捉えることが子どもにとっても安心感に繋がるのではないのでしょうか。

二学期制の導入については、29年度からとの考えではいましたが、校長先生やPTA連合会の話聞いて検証しなければいけないことが多々あると思いました。

議会からの指摘は市民からの意見として考えていく必要があると思いますが、29年度に向けこれまで取り組みをすすめていただいた校長先生や教員の皆さんのやる気を折ってしまうのが心配です。例えば全く行わないのではなく、一部の学校で試行を行い問題点を解消するとともに、完璧な答えは得られないかもしれませんが1年かけながらPTA連合会の課題解決や地域への浸透などを行うことで、30年度導入に向けたステップにできないかと考えます。

○針山委員 子どもと向き合うという願いが出ることで自体が、学校にはその時間がないことを意味しています。前にも話しましたが、6日で行っていた事を5日で行うことが物理的に無理であり、必然的にゆとりは減っているからこそ時間を生み出さなければいけないと思います。文教産業委員会から意見はいただきましたが市民全ての声ではありません。PTA連合会の調査や校長先生方から多くの願いがありますので、前回の会議では時期尚早ということで更に意見を聴取していますけれど、ますます早急に導入を図りたいというのが私個人の強い考えでもあります。ただ、教育委員会という合議制の場であり皆さんと意見を同一にしながら進めたいと思っています。

○中村教育長 子どもに向き合うとは時間を生み出すという事だけではなく、個々の子どもへの向き合い方こそが重要であり、評価を持って向き合う、即ち単に通知表を何回出すという事ではないというように聞かせていただきましたが事務局はいかがですか。

○山本学校教育課長 学習の充実と生活の充実、子どもに向き合う場面と機会の充実を図ることを考えています。学習の充実については、教師や保護者が児童生徒一人ひとりの資質や能力、学習実態、心の様子等をしっかりと理解し、その子にとって最も適切な学習支援をすることにより、自己肯定感を持ち生きる力を育てて欲しいと思っています。授業1時限の中で子どもの理解と適切な支援により子どもと向き合うということもありますし、家庭と連動しながらの支援もあると思います。

また、長期休暇や土日などの個々における家庭学習のあり方を保護者の皆様と学校が協力しながらすすめる必要があると思います。生活面については野崎委員に提案いただいた命の教育や人権教育等を大切にすることや、子どもが朝起きて夜眠りに就くまでの姿を見つめてより良い生活環境を築く必要がありますし、更には地域の方々からも支援をいただきなら、子どもの育成を見届けたいと考えています。

子どもの学校生活における様子等は、通知表による理解と説明もあると思いますが、普段の家庭訪問や電話連絡、三者懇談などをきめ細かく充実させることにより、一人ひとりの子どもが自信や夢や誇りを持ち生きる力を身に付けられるよう、学校と家庭を含めた社会全体で支え合えることを願っています。

学期の長さについては、失敗や挫折があった場合に短い期間の中だけで評価することになりますので、期間をより長くすることは子どもの健やかな成長につながり、より有効であると考えています。

○長瀬委員 子どもと向き合う機会と場面の充実というのは、一見しただけでは抽象的な言い

回しで見えづらい部分があり、私は先ほど授業時間の確保という説明をしました。この内容は誰もが想像できることであり、具体的に見える形で伝えなければ理解を得ることは難しいと思います。教育的な理念は大切なことではありますが、これだけでは共通理解とならない部分があるので、より具体的な分かりやすい言葉や内容で説明することが大切だと思います。

○中村教育長 一つ発言させていただきます。子どもと向き合う場面と機会というのは、本当にあらゆる場面や機会、真に子どものことを考え見守っていくことだと思います。子どもは短い期間の中で大きく成長していく部分もありますが、長いスパンの中で捉えていくことが必要な部分もあるのではないかと。

例えば高山市においても不登校の現状は期待する十分な結果が得られていないところもあり、時にはこれまでの取り組みを止めてでも、保護者と一緒になり子どもに本気で向き合うことが必要だと思います。昨今の目を背けたくなる悲しい事案においても、後から考えると子どもに向き合うときの意識や配慮に課題があったのではと考えさせられます。

話を戻しまして、二学期制の29年度での導入は困難な部分があるとの考えがあり、その中で30年度の導入の意見もありましたので、教育委員会としての結論を見定めていきたいと思いますが、各委員のお考えはいかがでしょうか。

○針山委員 新たな学習指導要領ではアクティブラーニングが大きく示されていますが、アクティブラーニングで目の前にある課題が改善されていくものなのか少し考えさせられます。道徳や英語等がどんどん増加し、教育現場は非常に困惑している状態だと思います。だからこそ現場のためにも時間を生み出しておかなければ、子どもと向き合うことなどできないと思います。

○岡田委員 初めは、すぐにでも二学期制を導入したいと考えており、議員さんからの意見でその考えがぶれてしまっているものかと思いました。しかし、文教産業委員会からの意見を伺い、十分に考えたつもりの内容が地域に伝わっていなかったり、メリット、デメリットについても再考し、踏みとどまる必要もあるかと思いました。校長会やPTA連合会の考えを鑑み改めて整理すると、導入を30年度にすることで29年度の1年を30年度に向けて無駄にならない1年となるよう課題解決や検証を行うことが、確たる自信を持って導入できる事に繋がると考えるようになりました。

○野崎委員 私も当初は、29年度に始めるべきとの考えでいました。多くの理解は得られていると思いますが、不安な人がいることや議会からのご意見もあることは慎重に受け止める必要があるかと思いました。1年延期するとした場合には、29年度をどのように過ごすかが大事で、しっかりとした検証が必要であるかと思っています。

お互いに子ども達のことを考えるうえで、文教産業委員会と校長会、教育委員会がもっと話し合う機会を設けることが望ましかったのだと思います。ですから29年度の導入は見送り、ここからの1年間は議論の場を設け語り合うことで、この1

年があったから開かれた高山市の教育があると言えるようになると思います。

○長瀬委員

2月8日の校長会からの意見やPTA連合会のアンケートからしても、29年度から実施することは可能であると思っておりますが、今回の文教産業委員会からの意見は大きく捉えざるを得ないと考えています。そのため29年度から実施することは困難ですが、二学期制を実施しない訳ではありませんので、30年度には実施したいと考えます。では、29年度に踏みとどまる理由は、まだ十分に理解いただけていないとの意見があった部分を一つずつ埋めていくため、その対応としては保護者や地域住民の方に十分な説明を行うことが必要で、PTA総会や個人懇談、会合等の機会を捉えての丁寧な対応や、アンケート実施により意見や不安点を吸い上げたり、地域に対しては学校だよりなどを通じての周知や意見募集などを各学校で夏休み入りまでに対応できるとよいと思います。また、新たな取り組みを行う時は誰も不安があるものですので、その不安一つ一つを目に見える形で確実に対応して取り去り、不安を安心に変えていくことが必要です。

また、私は踏みとどまることで検証としてのモデル校は必要ないと考えています。そもそも先行的に実施するモデル校が必要と考えるのであれば、11月の導入方針を決定していく段階で検討がされていた事であり、導入年度が替わることでその検証を行う必要はないと考えています。むしろ必要なことは、全ての学校が親御さんや地域が困っていること、或いは学校が心配な部分があれば、その事に対して準備や検討を行う1年にしていく必要があると思います。

○打江委員

先日、教育委員会で義務教育学校へ移行する羽島市教育委員会の学校を視察させていただきましたが、その際に校長先生から、変化に対する抵抗感についてお話を伺いました。確かに納得する言葉であり、今回の場合は変化に対する不安感なのだと思います。どんなに理論詰めですすめていっても、分からない部分があるのではないかと思います。この1年で保護者の方、地域の方の意見聴取を再度行って、二学期制は高山の風土として合っているのかを考えていく必要があります。どのように検証するかも具体的にしなければいけません。数校のモデル校だけで各地域事情に応じた検証ができるか違和感があり、しっかりとした検討が必要です。やり方としては、三学期制の中で二学期制の取り組みを少し試みるなど工夫も必要かもしれません。

○針山委員

皆さんの意見をお聞きしましたので、私の思いを発言させていただきます。教育委員会で検討を重ね導入方針を決め、校長先生方がそれに向け努力を重ねていただき進めてきましたが、様々な意見によりこのような議論になっていることは、学校のモチベーション低下も心配され、学校の気持ちを考えると大変心苦しい思いです。私としては今も一刻も早い導入を望みますが、このような状況において皆さんの考えに協調し、1年間しっかり検証を行ったうえで30年度から実施する方向でよいと考えます。ただし、学校の試行に対する強い思いがあるのであれば、せめてモデル校の設置については検討を行ってあげたいですし、もし行えないのならその理由

をしっかりと伝える必要があると思います。

- 中村教育長 では、ここまでの議論をまとめますと、11月24日の定例会において二学期制の導入方針を決定し、保護者宛に方針決定の文書を発出しすすめてきたところですが、現状における地域等への理解度を鑑み、平成29年度の実施を見送り、30年度の実施を目指すことでよろしいか。

(異議なし)

- 中村教育長 ご異議がないものと認めます。
 では次の論点ですが、29年度の実施を見送った時に、実践を通して市民の皆様や議会に理解を深めていただくことが大切ではないかと考えますが、どのような方法がよいのか。モデル校実施の話もありましたが、その必要性等について議論いただきたいと思います。

- 野崎委員 現状としてモデル校を希望する学校はどの程度ありますか。また、市内31校は規模や地域性も様々ですが、モデル校が他校のモデルになり得るのかということを考えます。

- 針山委員 個人的に各学校と意見交換した中では、モデル校としてでも来年度から取り組みたいとの意見は数校から伺っています。

- 長瀬委員 今回、見送りを決定した場合に、ここまで進めてきた学校のモチベーションをどのように担保し、次に向かっていくかを配慮する必要があると思います。30年度に向けスムーズに移行していくことは必要ですが、地域性の大きく違う高山市においては、モデル校の実施が必ずしもそこに繋がるかは疑問点もあります。それよりも、これまで行ってきたように教育委員会と学校が、或いは学校間において課題等を持ち寄りながら議論を尽くし、着実に歩みをすすめることが必要ではないかと考えます。

- 針山委員 今回、文教産業委員会から意見もいただき、来年度に向けて検証を積み重ねる必要があると思います。高山市としては移行に伴うデータを持ち合わせていないので、モデル校を希望する学校があるのならば、取り組み検証することでデータとしても示すことができるのではないかと。

- 長瀬委員 私は仮にモデル校を実施するのであれば、それは不安の声に対して理解をしてもらうために行うのであり、文教産業委員会の説明のために行う検証ではないと思っています。

- 針山委員 私も基本的には同じ意見です。学校も新しい体制に移行するには手探りの部分や

様々な不安がありますので、それを解消する方法の一つとしてモデル校という手法があり、結果については議会に対しても報告できるというように捉えています。

○中村教育長 先程もモデル校に対する発言があり考えは様々なようですが、事務局としての見解はありますか。

○山本学校教育課長 最終的な目的は子どもと向き合う時間の確保であり、そのために29年度は今ある不安や疑問を解消したり導入後の学校の姿や子どもの姿をイメージしながら日々実践することで、今後、着実に導入していくことが大切かと思えます。不安や疑問を解消する方法としてモデル校もその一つではあるかもしれませんが、今は考えられる不安等に対してしっかりと向き合い、一つひとつ保護者等に理解を求めていくことが最も大切だと思えます。

モデル校に対して意欲ある学校もあるとは思いますが、学校の考えだけで取り組むことはできず、保護者や地域の理解を得ながらすすめる必要がありますし、この時期からすすめるには何を基準にモデル校を選ぶのかも課題であり、29年度は各学校が三学期制の中で30年度にむけて実施できる内容をすすめることがよいと思えます。

取り組みの中にはこれまでも示していた、学期の期間が長くなることによる学習意欲の継続、学期に対する切り替え意識、新学習指導要領に対する対応の3点については、各学校が共通して取り組む項目であると考えています。

○長瀬委員 これまで事務局には二学期制への移行に関する実例やメリット・デメリット等のデータを多く持ち合わせていますので、学校側からの個別の相談や質問に対しての答えや提示資料を準備して、学校をフォローできるようにお願いします。

共通項目3点の話がありましたが、新学習指導要領に対する対応については二学期制とは係わりはあるかもしれませんが、一緒にしてしまわず個別の課題としてしっかり対応するような方向ですすめることが望ましいと思えます。

○中村教育長 新学習指導要領への対応は正しくその通りだと思います。時期は同じとなりましたが二学期制と新学習指導要領に対する対応は全く別のものであり、教育委員会としてしっかりイニシアチブをとりすすめる必要があると思えます。

高山市では子ども教育参画会議を設けるなど小中一貫した教育を目指していますので、今回の件に関しても小中学校の校長会研修会等の場を捉えて各学校と教育委員会で、それぞれの取り組みについてしっかり共有していく機会を設置していく必要があると思えます。

○打江委員 この時期からモデル校を実施しようとする、学校を選択することも難しく保護者等への説明も必要であり困難に思えます。あくまでも子どもが主役であり、子どもが試行の渦に巻き込まれるようなことがあってはならないと思えます。この1年はモデル校に時間を費やしてしまうのではなく、意見を吸い上げることを全校で

着実に積み上げていくことが必要だと考えます。

○中村教育長 議論が続いていますが、ここで一旦休憩します。

(休憩 午前11時20分～午前11時30分) ※会場を市役所2階 203会議室に移動

○中村教育長 休憩を解いて会議を続行します。
引き続き発言をお願いします。

○野崎委員 導入を見送ったことに対し、これまで準備をすすめてきた学校や子ども達のモチベーションを下げないよう配慮が必要かと思えます。これまで学校には導入に向け様々な対応をいただいております、決まった内容をどのように伝えていくかも大事で、教育委員が直接の声で校長会に伝えられるとよいのではないのでしょうか。

○中村教育長 野崎委員は議会に対してもそうでしたが、お互いの対話を大事にしておられると思います。議会については前回までも発言がありましたが、調整が難しく実現していないことをご理解ください。

○長瀬委員 学校現場である校長会からの試行等により検証を行う必要があるとの意見は重く受け止めています。ただ、皆さんの意見をお聞きしますと、全般としては物理的な問題等から実施は困難と捉えています。

その中において、この1年間に行うことを明確に示し学校側はその内容を着実に実行していくことが必要だと思います。その中身の一つとして、高山市でのモデル校実施は難しいと考えますので、例えばその代わりに各学校がいくつかの先進校を視察することにより、二学期制にした場合のデメリットをどのように埋めていったのか直接見聞し学び情報共有していくという方法も考えられるかと思えます。

○岡田委員 30年度に向けて様々なことが考えられますので、各学校の思いや考えがあれば教育委員会へ伝えていただき、これまでの取り組みを止めることなく、違う形で進めていけることを望みます。

○針山委員 29年度は三学期制の中で、各学校において30年度に向けてすすめていくことになると思いますが、これが逆に学校の負担とならないような支援や体制が必要であると考えます。校長会としてはモデル校を実施したいとの思いがありますので、実施しないのであれば、その考え方や対応等について明確に回答しなければいけないと思います。

○中村教育長 他に発言はございませんか。

(発言なし)

○中村教育長 議論も尽きたようでありますから、本日の議論の内容や今後の方向性について確認いたします。

- ・二学期制については29年度の導入を見送り、30年度に向けて取り組む。
 - ・取り組みの中身としてモデル校は実施せず、理解が足りなかった部分、不安な部分、説明が足りなかった部分等について直ちに各学校において取り組む。また、子どもに向き合う時間の確保につながる取り組みは、可能なものから順次すすめる。
 - ・各取り組みは精査することにより、子どもに向き合う時間を確保することを前提とする。
 - ・モデル校実施の代替とした先進校視察等を校長会の意思と裁量により検討いただく。
 - ・全体を通じて判断に至った経緯や考え方を校長会に明確に説明を行う。
- 以上のような内容となりますが、ご異議ございませんか。

(異議なし)

○中村教育長 ご異議ないものと認めます。

○長瀬委員 議論が終結したようですので、最後に全般を通じた感想を述べさせていただきます。今回、二学期制へ移行する方針が結果的に変更となることは異例のことであると捉え、今後このようなことはあってはならないと思います。この中身は本来なら教育委員会の権限で判断できる内容であるにもかかわらず変更したということは、教育現場に大きな不安を与えており、教育委員会として今回のことを教訓に今後は議会や地域等へも適切に情報提供するなどの対応が必要であると感じました。

学校や保護者等における不安などについては、丁寧に汲み取りながら対応いただくようお願いします。

○中村教育長 教育長の職務として、学校関係者の各立場において議論を尽くしていただきながらこのような結果になったことに対しお詫び申し上げます。今後の対応については全力を上げ取り組みますのでよろしくお願いします。

○中村教育長 他に発言はございませんか。

(発言なし)

○中村教育長 それでは以上を持ちまして、本日の議事日程が全部終了いたしましたので、本日の会議を閉じ、平成28年度第15回高山市教育委員会を閉会いたします。

午後0時00分閉会